海城中学高等学校

自然に触れる。文化に触れる。

机上では得難い「実感」は、一生ものの財産となる

リベラルでフェアな精神をもった「新しい紳士」の育成を目標に掲げる海城中学高等学校。進学本位の詰め込み教育を行わず、体験学習や行事、クラブ活動も活発だ。仲間と協力しながら困難を乗り越えていくこれらの活動は、研鑽を積み、生涯の友を得る大きな機会ともなっている。澄みわたる青空のもと、9月19日・20日の2日間にわたって開催された第124回海城祭を訪れた。

天候にも恵まれた第124回海城祭

新宿区のおとめ山公園にて観察・調査をする地学部員たち。学校から徒歩約20分の公園に、交代で出かけて湧き水の流出量を測る

「地学はじめますか？」

「海城祭はこちらです！」

蛍光グリーンのTシャツを着た文化祭実行委員の生徒たちが新大久保駅前に立ち、来校者を案内する。海城は中高それぞれに運動部、文化部、同好会など多数のクラブがあり、多くの生徒が学業と両立させながら活発に活動している学校だ。

2教室を使って展示を行っていたのが地学部。創部8年目を迎える同部は、主に天文班・気象水文班・地質班の3つに分かれて日々活動を行っている。文化祭での展示は、砂金採り体験、竜巻の人工発生装置を使ったデモンストレーションなどバラエティに富む内容。また部員の採集物が中心の化石・鉱物はなんと100種類以上も並び、毎年人気の手作りプラネタリウム上映には予約が殺到した。

2015年、この地学部に素晴らしいニュースが駆け抜けた。日本地球惑星科学連合（JpGU）2015年大会の高校生セッションで、同校の研究が全国43校78件の発表の中から最優秀賞を受賞したのだ。発表したのは清水彬光君（高2）。「新宿区立おとめ山公園周辺の地下水の変動把握および涵養域の推定」と題した湧き水の研究だ。

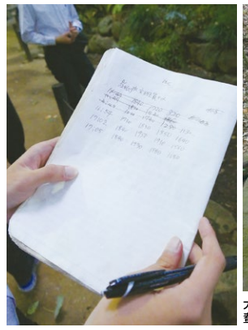
南極観測隊員の経験も持つ、地学部顧問の上村剛史教諭。部の発足時から長年続けてきた調査・研究が実を結んだことが非常にうれしいと語る。「今回の受賞は、部員たちの素晴らしいがんばりによってもたらされたものです。湧き水研究は私自身の専門分野でもあり、部としてもこだわり継続してきたテーマ。卒業した部員から積み重なってきた成果を、清水君が見事にまとめあげてくれました」

同校の湧き水調査チームは「おとめ山プロジェクト」として、現在も引き続き活動中だ。Facebookには専用ページもあり、月に1回程度更新をしながら発信し続けている。

高校部長の廣木颯太朗君・右田亜朗君（ともに高2）が進める研究は、都会の光害について。「裸眼及びSQMによる夜空の明るさ観測の比較」として発表したJpGU 2015年大会では奨励賞を受賞した。「新宿は日本一夜空が明るいんです。ということは、海城は日本で最も星が観察しにくい学校といえます。どうして空がこんなに明るいのか、星が見えないのか。そういった素朴な疑問から研究をスタートしました」

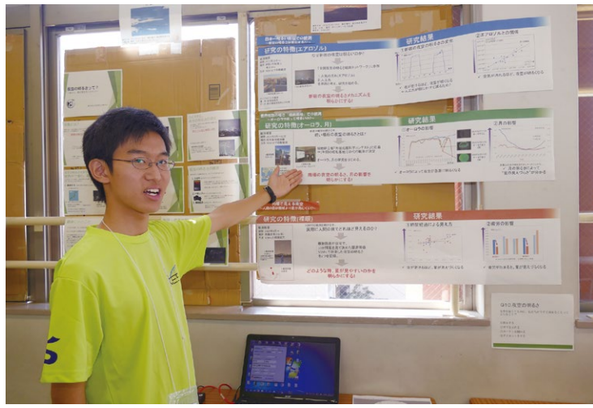
2012年から学校の屋上で行っているのは、SQMという装置を使った夜空の明るさの自動観測。昼夜問わず5分ごとの観測数値をパソコンに取り込み、データを積み重ねている。廣木君は研究を続けてきたことで、興味の範囲も広がったという。「研究の先の広がりや、これを何かに活かせないかと思うようになりました。今は機会あるごとに発表し、多くの人に光害を知ってもらいたい。僕ら中高生にもできることはあるはずだし、みんなで環境を守っていければいいなと思うんです」

中1でもものおじすることなく解説を行う



大会で湧き水の発表を行った清水彬光君（高2）。受賞について「先輩から受け継いだ調査が実を結び、とてもうれしいです」と語る

地学部顧問の上村剛史教諭

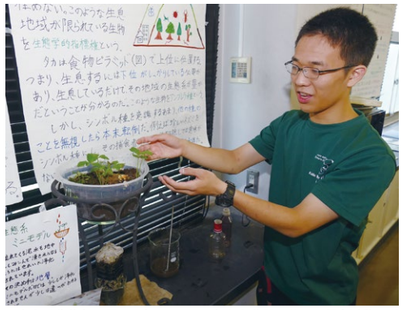

都会の光害について研究を進めている廣木颯太朗君（高2）は高校部長も務める

文理問わず役立つ本当の学びを

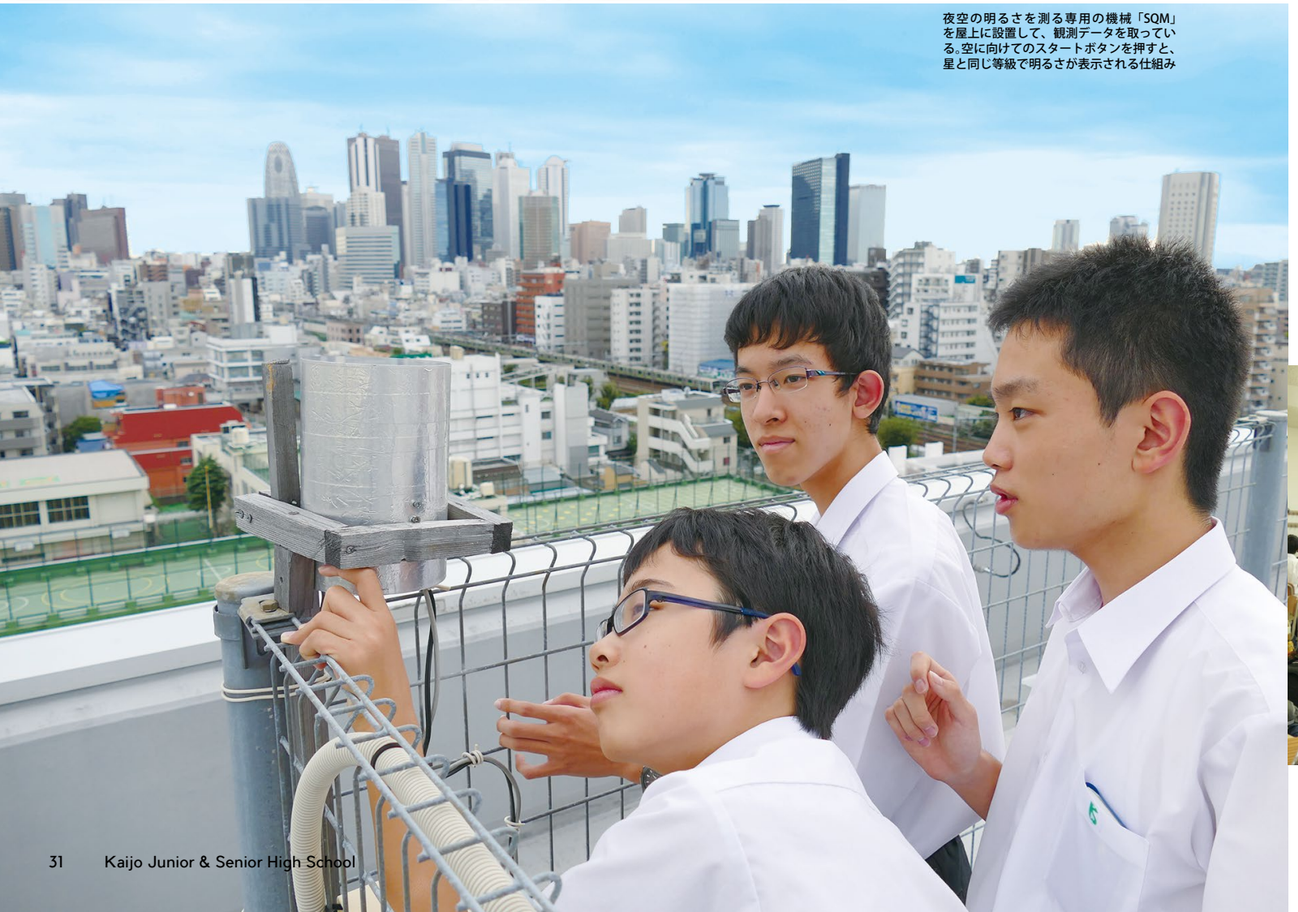
海城地学部の特徴は、フィールドワークをしっかりと行うことだ。「地学に限りませんが、実体験を積まないとわからないことは世の中にたくさんあると生徒に伝えたい」と上村教諭はいう。

例えば江東区で行った災害フィールドワーク。江戸時代、このエリアにある家屋が高潮で流され、多数の死者・行方不明者が出たという記録をもとに、古地図と現在の地図を片手に周辺を歩き回った。自然災害が増える近年、自分の足で歩き、地形や歴史を体感することは有益な体験となることは間違いない。

「今夏には富士山周辺で地学巡検旅行を行いました。火山地形、湧き水、地質を中心に、文化や信仰までも意識した総合的なフィールドワークです。富士山の持つさまざまな側面は、教科や科目、文理を越えた学びにつながるもので、生徒も多くの気づきを得られたようでした。体感での学びは、どんな進路へも活かせるはずです」


こちらは生物部の展示。部では2009年から北野の谷戸の保全活動にボランティアとして参加している。同活動は所沢市にある北野の谷戸の里山文化を守る、トトロのふるさと基金が行う取り組み

座学では学べない大切なこと。中高生という特別な期間だからこそ、生涯にわたる総合的な学びの一端を体感し、身に付けることは、人格形成にも大きな影響を与えるはずだ。今回紹介した部活動のように、海城では多方面から生徒の人間形成を後押しする環境が整っている。「海城での学びや部活動を通し、すぐれた判断のできるリーダーが本校から生まれることを期待しています」と上村教諭。生徒に寄り添い、やさしく見つめるまなざしが印象に残った。


夜空の明るさを測る専用の機械「SQM」を屋上に設置して、観測データを取っている。空に向けてのスタートボタンを押すと、星と同じ等級で明るさが表示される仕組み